

# 最後の希望

琉球新報社  
編集局写真部

豊浜由紀子



那覇市牧志にある希望ヶ丘公園。国際通り、平和通り、桜坂に囲まれた繁華街の中の緑の空間。訪れるだけで夢や希望が湧いてきそうな名の響きが私は好きだ。先日、希望を求めて約10年ぶりにカメラと足を運んでみた。

桜坂沿いの希望の入り口を行くと、すぐそこに国際通りがあるとは思えないほど緑にあふれ、穏やかな空気が流れていた。園内には昼寝をする人、何もせずにベンチに座りこんでいる人、酒盛りをしている人など年代も性別もさまざまな人々が集っている。その中で熱心に野良猫を見つめる一人の男性がいた。

彼の視線の先には生後一ヶ月ほどの3匹の小猫と親猫が寄り添っている。話を聞いてみると、週に3度ほど公園内でお昼を食べ、弁当の残りを野良猫にあげているという。猫たちも彼には慣れているらしく、警戒心が見られない。一見、普通の愛らしい小猫なのだが、よく見ると3匹とも左目が潰れていた。目もよく見えていないのか、親猫の鳴き声を頼りに歩いているという様子だ。「誰かが殺虫剤でもかけていたずらしたんだろう」。彼は悲しそうにつぶやいた。希望の名に似合わない光景。私が公園に抱いていた希望が崩れかけた。

猫たちの昼食を終えて、これまで園内をゆっくり散策したことのなかった私は、彼の案内で歩いてみた。ダンボールやタオル、

布団など生活の臭いが漂う一角を通り過ぎた後、彼は「女性一人ではううううしないほうかいよ」とアドバイスして去って行った。

しばらくたって、私はまた一人で公園を訪れた。梅雨も明けた快晴の日。「青空の下なら一人でも大丈夫だろ」という確信を持って園内に入った。猫に餌をあげていた男性の姿はなかったが、代わりに階段の手すりや木々の枝にたくさんの洗濯物が並んでいた。天気のいい日に洗濯物を片づけるのはどこで生活しても同じなのだ。那覇の繁栄とは対照的な空間とそこに居場所を求め集う人々。夏の日差しを浴びた洗濯物は、明日への生きる希望を太陽から吸収しているようにみえた。

那覇市の公園緑地課では、定期的に警察と公園を巡回し、そこで生活する人々に立ち退きを指導しているそうだ。しかし「いたちごっこですぐに舞い戻ってくる」と担当者は頭を悩ませていた。

人間も猫も安心してのんびり散歩できる公園になってほしいという気持ちもある。一方、最後の望みを託し集ってくる人々にこれまで通りひっそりとわずかな希望を与えるづける公園であってほしいという複雑な思いもある。今後、希望ヶ丘公園がどう変化していくのか分からぬ。しかし、誰もがいつまでも希望を持ちつづけることのできる名前通りの公園であってほしいと心から願っている。



内田啓二氏が就任  
運輸部長に



江口祐治氏が就任  
財務部長に

寺西前部長の転任に伴い、平成11年7月1日付けで運輸部長に内田啓二氏が就任した。

昭和55年京都大学法学部卒業。昭和55年運輸省入省、昭和62年航空局飛行場部管理課補佐官、平成元年貨物流通局海上貨物課補佐官平成3年国際観光振興会フランクフルト観光宣伝事務所次長、平成6年石川県企画開発部次長、平成8年運輸政策局国際業務第二課国際協力官、平成9年運輸政策局観光部企画課国際業務室長を歴任後現在に至る。

三重県出身、44歳

(ひとこと)

沖縄がこれまで以上に注目されている今の時期に、赴任してきたのは、幸運だと思います。美しいビーチで、のんびり過ごすのが大好きです。

林前部長の転任に伴い、平成11年7月1日付けで財務部長に江口祐治氏が就任した。

昭和54年早稲田大学政経学部卒業。同年大蔵省東北財務局入省、平成2年総務省人事局給与第二課参事官補、平成4年大蔵省東海財務局理財部経済調査課長、平成6年(財)交流協会台北事務所経済部主任、平成9年預金保険機構預金保険部企画第二課長兼大阪特別業務部、平成10年預金保険機構大阪預金保険部次長兼企画第二課長を歴任後現在に至る。千葉県出身、44歳

(ひとこと)

初めての沖縄勤務です。以前、台北に勤務していたせいか初めてにもかかわらず、何故か近しい地に帰ってきた気がします。新しい発見をしてみたいと思っています。